

かわさき産業ミュージアム本格実施に向けた提言

平成16年4月

川崎区産業ミュージアム専門委員会

1. 趣旨・目的

幕末以来急速に進んだ日本の近代化を支え、20世紀の日本の地位を築いた産業技術の発展の歴史を物語る近代化遺産や産業文化財は、産業構造・社会構造の変化とともに今急速に失われつつあります。これらは、それぞれの地域の発展や変遷、そこに暮らす人々の生活や文化を後世に伝える重要な証でもあります。京浜工業地帯の中核としての役割を担ってきた川崎区には、これらの貴重な資料が数多く残存しています。これは川崎区を特徴づける社会的資源であり、区民と企業の共通の誇りとして、新たな地域づくりの中核となり得るものです。

川崎区産業ミュージアム専門委員会は、川崎区の依頼により、区内に散在する近代化遺産・産業文化財をネットワークし区域全体を展示場に見立てた分散型ミュージアム形成のための指針として、「かわさき産業ミュージアム構想」を2003年2月に策定しました。

「かわさき産業ミュージアム」は、幅広い層の見学者に対して生涯学習の機会を提供するとともに、次世代を担う青少年が川崎の「ものづくり文化」の意義を理解し、産業技術の「夢」と「こころ」を継承する契機となることを目指しています。

本年度、川崎区役所では、「かわさき産業ミュージアム」本格実施に向けての課題を抽出・整理するために、実験事業として各種の見学会を実施いたしました。この実験事業で明らかになった課題は非常に多岐に亘り、昨今の経済状況の中での見学者受入側である企業の環境、行政区としての区役所の限界等、さまざまな問題に関係する事項も多く、一朝一夕に全てを解決することは困難です。しかしながら、本構想を実現するためには、着実にこれらの課題を解決してゆくことが重要であることは言うまでもありません。

このため、ここに、「かわさき産業ミュージアム」本格実施に向けた課題の中でも早急に対応すべき事項を以下の通り纏めました。実現に向けて関係各部署で検討頂きますよう、本提言書を提出いたします。

2. これまでの経緯

平成13年4月～12月 インタラクティブかわさきネットワーク()が川崎区の宝物さがしを進める過程で、区内に近代化遺産や産業遺産が多いことに気付く。

平成14年2月	企業市民交流事業フォーラムにおいて、インタラクティブかわさきネットワークが「産業ミュージアム構想」を提案する。
平成14年7月	川崎区産業ミュージアム専門委員会が発足。インタラクティブかわさきネットワークの意見を取り入れながら専門家による構想づくりが始まる。
平成15年2月	川崎区産業ミュージアム専門委員会が「かわさき産業ミュージアム構想」を発表。企業市民交流事業フォーラムでも発表される。
平成15年3月	産業文化財所有企業等と交渉開始。実験見学会への協力を依頼する。
平成15年9月～11月	バスツアー方式による実験見学会を実施する。(大学生・小学生・一般を対象に全5回実施)
平成16年2月	企業市民交流事業フォーラムにおいて15年度実験結果を発表。
平成16年4月	川崎区産業ミュージアム専門委員会が関係各部署あて提言書を送付。

インタラクティブかわさきネットワークは、川崎区の進める企業市民交流事業に参加する20企業12団体で構成されており、企業市民と生活市民の相互交流を図り、行政と協働して魅力あるまちづくりを推進しています。

3. 提言1：「近代化遺産・産業文化財」の保存・活用・管理体制の強化～区内の企業及び管理者の方々に向けて

(1) 「かわさき産業ミュージアム」への協力

- ・「川崎区近代化遺産・産業文化財」データベース整備への協力
- ・公開体制の整備

今年度行った実験見学会では、「近代化遺産・産業文化財」に対して以前から関心を持っていたという参加者が6割、見学会への参加を経て「もっと詳しく知りたい」と考えた参加者が9割以上に達しました。これは非常に高い数値であり、「近代化遺産・産業文化財」が川崎区の新たな地域づくりにおいて、魅力あるコンテンツとなりうることを示しています。

しかしそのためには、それぞれの「近代化遺産・産業文化財」が現在どのような状況にあるか、背景となる資料の有無、現在の生産活動の中で区民(市民)へアピールしてゆきたい部分等、今後、ミュージアム活動を推進するうえで様々な計画の基礎となる情報を、整理してゆく

必要があります。

川崎区としても、平成16年度以降、区内に存在する「近代化遺産・産業文化財」の情報データベースを整備し、これに基づいて「川崎区近代化遺産・産業文化財」としての登録を随時、行っていく意向とのことですので、このための調査に、是非ともご協力下さい。

調査を行った「近代化遺産・産業文化財」の情報は、広く一般に公開することで有効に生かされます。川崎区が今後企画・検討していく予定の「かわさき産業ミュージアム」ホームページへの掲載、バスツアーによる見学や一般見学者の受け入れ等、様々な段階での公開プログラムへのご理解とご協力をお願いいたします。

(2) 資料の保存・保管

- ・自社での保存・保管
- ・廃棄、移転の際の連絡

古い「近代化遺産・産業文化財」やその関連資料は、それぞれの産業分野、技術分野において非常に貴重なものであるとともに、それをつくりあげてきた企業にとっても、企業の歴史を物語る財産であり、社員の方々の誇りともなりうるものです。

これらの貴重なものを後世に伝えることは、企業や社会の義務のひとつであると考えます。また、実験見学会での参加者アンケートでも、「次世代に伝えたいもの」として、川崎区に所在する多くの「近代化遺産・産業文化財」が挙げられています。

つきましては、これらの資料を廃棄することなく、できる限り保存・保管いただくようお願いいたします。

しかしながら、昨今の工場移転、施設・設備改良に伴い、古い「近代化遺産・産業文化財」やその関連資料などが廃棄されるケースが見受けられます。

平成15年度には、日本冶金株式会社の「プラネタリー熱間圧延機」という産業文化財が廃棄される予定でしたが、日本冶金株式会社のご厚意により、この機械の一部をなしていた「フィールドロール減速機用歯車」を、区内の富士見公園にモニュメントとして設置・保存することができました。

初めての試みではありましたが、川崎のものづくりの歴史を物語る貴重な宝物として保存・公開できたことは、高く評価されています。

自社で保存する際のアドバイス等が必要な場合、または、万一どうしても「近代化遺産・産業文化財」を廃棄・移転しなければならないような場合等、状況に応じて行政が何らかの手段を講ずることが出来る場合もありますので、そのような際には是非とも下記にご連絡下さい。

[かわさき産業ミュージアムについてのご連絡窓口]

川崎区役所地域振興課

〒210 8570 川崎市川崎区東田町8 TEL: 044 201 3127

(3) 見学受け入れ体制の拡充

- ・見学者の受け入れ
- ・区外在住者、個人見学者の受け入れ
- ・土・日・祝日の受け入れ

先に触れましたように、「近代化遺産・産業文化財」に関心を持つ人は多く、「機会があれば見学してみたい」と考える人は少なくありません。

実験見学会への参加を通じて、「川崎区に対する印象が(良い方に)変わった」と答えた人は7割を越えており、特に「近代化遺産・産業文化財」と合わせて、企業の最先端技術や環境対策への取り組み等を実際に見学することによるPR効果は非常に大きなものがあります。

また、実験見学会に参加した小学生は、9割が「他の工場も見学してみたい」と答えており、「かわさき産業ミュージアム」は次世代を担う子供たちに「ものづくりの心」を伝える良い機会として活用しうるものでもあります。

様々な年齢・職業の見学希望者が、企業の生産活動や「近代化遺産・産業文化財」に触れるためには、区外在住者や個人単位での見学希望者の受け入れ、家族での訪問を可能にするため、できれば土・日・祝日の見学受け入れ等、希望者が気軽に見学できるような受け入れ体制の拡充が重要となります。

しかしながら、このような見学者の受け入れは、休日の出勤、安全管理等、難しい事項があることも事実です。このような場合には、限定した特別公開日を設定することでも、多くの方々が見学できることとなります。

また、見学者受入時の案内・説明などについては、退職された方々にご協力頂き、現役の方々の負担を少しでも軽減したり、退職された方の誇りと企業への愛着をより一層大きく出来ることも考えられます。

これら見学者の受け入れについても、川崎区では前記の窓口が中心となり、先に述べた調査とあわせて情報を収集する予定です。それらの情報とあわせ、行政が支援すべき事項等の要望がありましたら、ご遠慮なく前記窓口までお知らせ頂くようお願いいたします。

4. 提言2：産業観光都市に向けた基盤整備～市・区の行政各担当部局に向けて

(1) 「産業のまち」としての都市整備

- ・モニュメントの設置
 廃棄の危機にある産業文化財・近代化遺産の保存
- ・意匠デザイン等の工夫（ロゴマーク等）
- ・「近代化遺産・産業文化財」への案内表示

特に川崎区外に在住する方々から、実験見学会に参加した際の川崎区の印象として、「路上の魅力に欠ける」という意見が寄せられました。

「かわさき産業ミュージアム」が区域全体を展示場に見立てた分散型ミュージアムとして、訪れた人に川崎区の魅力伝えていくには、まちの至る所でかわさきを「産業のまち」として印象づけるような風景をつくっていくことが大切です。廃棄の危機に有る近代化遺産・産業文化財等を歩道や公園にモニュメントとして設置するなど様々な方法で保存し、これらのものが、周囲の風景と溶け合い、まちの一要素となるような都市整備が必要です。

また、特に野外に有る近代化遺産等は、比較的不便で分かりにくい場所にあるため、ここへの道路案内や資料の説明板の設置など、市民が理解し、容易に訪れることができるような方策が必要です。

(2) 交通網の整備

- ・バス路線の整備・拡充
 「川崎区近代化遺産・産業文化財」へのアクセス支援
- ・水上からのアクセス手段の整備

「かわさき産業ミュージアム」が分散型のミュージアムとして見学者を迎え入れるためには、点在する「近代化遺産・産業文化財」を結ぶ交通手段の整備が必要であり、実験見学会でもこの必要性を訴える意見が多く寄せられました。

現状では、川崎区内のバスは川崎駅を中心として放射状に運行しており、点在する「産業文化財・近代化遺産」や工場などを繋ぐ、横への移動は困難な状況です。このため、市民がより気軽にこれらの地域を訪れることができるような、交通網の整備・拡充が重要と考えます。

また、川崎港の風景、特に船から見た沿岸の工場地帯の景観は、非常にダイナミックで、かわさきを特徴づけるものです。実験見学会でも、「多くの人々にとって工場地帯自体がとても珍しく、ある種のアミューズメントパークのような感動を与える」ものであり、「造形的な美しさ

よりも、機能性・必要性から造られた集合物から、ものすごい迫力を感じる」といった意見が寄せられました。また、参加者の8割以上が「また見学したい」と答えており、普段なかなか見る機会が少ないこともあって、非常に強い印象を残したことが伺えました。

しかし、現在船から川崎臨海部を見学する機会は、区役所などが実施する見学会などに参加するしか方法がありません。また、この見学会で使用する船は巡視船であり、必ずしも見学に適したものではありません。このため区民（市民）が容易に利用出来るよう、水上バスの定期運行等の実施が是非とも必要と思われれます。

（3）「かわさき産業ミュージアム」の普及・啓発

- ・地域の小・中学校との連携
- ・区及び市の広報媒体を通じた広報活動の充実
- ・業界団体等を通じた企業への働きかけ

文部科学省では、小・中学校については平成14年度より、高等学校については平成15年度より、「総合的な学習の時間」を本格的に実施しています。かわさきを特徴づける「ものづくり」を継承・発展させてゆくためには、特に若い世代に「産業文化財・近代化遺産」に触れる機会を増やしていくことが重要です。

先にも触れたように、実験見学会に参加した小学生の9割が「他の工場も見学してみたい」と感じ、また一つ一つの見学先に対しても、身近にありながら普段目にする事のない「工場内の油の匂い」を体験し、「ものづくりの現場」を見学することで、新鮮な驚きと興味を持つに至りました。

こうした成果を踏まえ、教育委員会との密な連携のもと、「総合的な学習の時間」を有効に活用し、見学会等のプログラムを実施してゆくことが、次世代への継承・啓発活動として非常に重要です。

また、実験見学会のアンケートの結果、まだまだ市民の「かわさき産業ミュージアム構想」に対する認知度は低く、比較的関心が高いと考えられる参加者の中でも4分の1程度の市民にしか認知されていないことがわかりました。

かわさき産業ミュージアムは、本来区民・市民の要望でつくりあげられるべきものであり、行政だけの活動では、持続的で大きな活動とすることは困難です。今まで以上に多くの方法を使い、まずは本活動の意義を市民に理解いただき、本活動の支援者を増やし、その上で市民が自主的に活動できるような環境作りが、最も大切な観点です。

同様に本活動の目的を理解・協力いただける企業はまだまだ限られており、すぐに本格実施に移行することは困難だと考えられます。このため、単発的に本活動への協力を依頼するだけでなく、各種業界団体等を通じても協力を働きかけることが必要と考えます。

(4) 事業化に向けた取り組み

- ・中核となる組織（準備室等）の設置
- ・独自予算の確保、区自主事業から全市的事業への転換
- ・市総合計画及び観光基本計画における重点的取扱い

産業ミュージアムを実現するためには、市民自らが活動する必要があることは、先に触れた通りですが、これを育て支援してゆくためには、何らかの中核となる組織が必要です。

将来的には、公共施設や臨海部の公有地・空地等を利用して「産業文化財・近代化遺産」を集積したセンターを設置し、ボランティア団体との連携やNPO法人を設立して産業ミュージアム推進の拠点とすることも考えられますが、実現には年月が必要だと思われます。このため、現状では少なくとも準備室にあたる組織を設置するべきであり、これまでの経緯から、当面は、区役所区政推進課がその準備室の役を担ってゆく場合には、本活動に専門的に従事する職員の配置や活動予算など、よりアクティブに動ける体制を作る必要が有ります。

実験事業によって抽出された問題点は、予算措置が講じられれば区としての活動で解決できる問題もありますが、現在の環境では区だけで推進するには困難な課題が数多く見受けられます。上記の(1)～(3)に代表されるような課題を一つ一つ解決し、本活動を今後実際に推進してゆくには、関係部局が連携し活動環境を整備してゆかなければなりません。

川崎市には、既に市民ミュージアムや県立図書館といった公共施設、多摩川エコミュージアムのようなNPO団体等、産業ミュージアムを推進するうえで連携できるとされる組織が多く有ります。また、臨海部再生のためのリエゾン協議会の検討も始まっています。更に平成16年度は、市政80周年、10年に1度の川崎大師の大開帳といった記念すべき年にあたります。これらの状況を鑑み、単に川崎区の活動に限定することなく、全市的、又は県としての取り組みとして進めてゆくことが必須です。

おわりに

「かわさき産業ミュージアム構想」は、川崎区民（市民）や川崎で活動する企業の共通の宝物であり、地域の誇りでもある「近代化遺産・産業文化財」を、魅力ある地域づくりのために

有効に活用する取り組みです。何卒、本構想の趣旨をご理解いただき、ご協力を賜りますよう、
お願い申し上げます。

川崎区産業ミュージアム専門委員会

委員長 後藤 治（工学院大学建築都市デザイン学科 助教授）

委員 大原 一興（横浜国立大学工学部建設学科 助教授）

久保田稔男（国立科学博物館理工学第四研究室 研究官）

高橋 征生（社団法人日本機械学会 常勤理事）

長島 保（NPO 法人多摩川エコミュージアム代表理事）